

金魚愛玩經驗錄

65

136

常磐木
秀慶著

金魚愛玩經驗錄

全

卷之八

東 京 國 書 館				
一	一 三 六	五	六 五	
冊	号	架	函	類

東周館

金魚愛玩經驗録

夫^た樂^{たのしみ}者^{もの}もんで愛^{あい}す^べ者^{もの}大^{おほ}多^く暇^{ひま}多^くな^り利^り
 権^{けん}勢^{せい}月^{げつ}を^を弄^も婦^ふの^の雅^{みやび}人^{ひと}の^の志^しある^{あり}あり
 雅^{みやび}俗^{ぞく}拳^{けん}の^の愛^{あい}玩^{あそ}志^し樂^{たのしみ}む^む者^{もの}の^の金^{きん}魚^{ぎょ}なり
 然^{しか}ま^まも^も此^{こゝ}の^の道^{みち}ある^{あり}や^や何^{いかん}去^い頃^{ころ}も^も利^り本^{ほん}朝^{てい}
 に^に渡^{わた}来^きせ^せ志^し必^{かならず}其^{その}故^{ゆゑ}を^を知^し者^{もの}曾^{なほ}て^も聞^きか^かず
 遺^{のこ}憾^ご茲^{こゝ}に^に年^{とし}何^{いかん}里^り近^{ちか}日^ひ或^{ある}る^る翁^{おきな}語^{かた}て^も曰^{いわ}く

金魚愛玩經驗録
 明隆堂梓

人皇百五代後柏原院の御宇文龜二年正月廿日始より和泉國堺の津に渡来し時人珍魚なりと考る未由を記録せしに何きの秋か亡失畢ぬ漢出にてハ宋の時多も己之愛玩せしやと考り今や蘇歳月を終り其漁ハ分明ら蒜とも其種數如々之繁茂し邊出僻地と云ども年久考る人の愛玩す教を以て彼の翁が就

之聊か愛顧を益人と歎する若婆心の丹金魚ハ原と尋常の與之非ら吹唯庭園の泉水或ハ草木の清蔭地面敷き中ニ游泳するを望み見て爵を敷じ神を養へ未病を治するを是る者なり抑も金魚二三種有り琉金和金花鱒あり又れ金銀銀銀鉄魚丹魚の名あり其名數種何まども取るに益なりし鉄魚ハ西南地方ニ在り

て東國と未だ見へず此の魚天性陽氣を載
 て黄金色銀色鉄色丹色等の養艶を露
 出す而多一種体中ニ數色斑出す如も此
 俗呼で更砂と稱り實に愛す可きの魚
 なり琉金和金あるも此等尋常の魚
 類般容に多々四色を呈し尾に大回小異
 阿るの丹呈く強壯なるも此より金鱗
 なる者ハ其体豊饒に多々首既恰も獅

子の如多たのまどもの笑るに似多り背如柔
 懐に尾ハ尋常としく小きく游泳す如
 尤も穏和と物と動せざるに鬚鬚毎利
 銀合バ内に波凡の立つな多外に争擾の
 患ひなもし是ハ愛する處きもあ之然まこと
 も人各好む所何利其好愛ニありし大
 異なる教と有り彼の金鱗純如きハ撫育
 委志事まが婦女女子と魚ども樂志乞る

者ものなる利え四時よじ他たニ遊あそ楽び哉や蘇か乾ん志し念んあり
 春はるハ親おや魚うしを健あ康まニ類や以も能よき子こ哉や授お孕んせ
 志しめん志しと哉や思おもむ隻なハ卵たまごを取とり解かへすに
 職いまちのく秋あきハ容か姿た乃の如ごと何なんなるやリ注し
 目め志し冬ふゆハ容か色た乃の抽ぬく多お数とを撰えんで親おや魚うし
 とあし明あ年ねん志し獲とり以も勝かるよよ兒こ子こ哉や取とり
 と歎なげし防ぼ圍ゐニ注し意いし日に夜ちや心こころを生な育だて
 絲いと好す愛あ者ものニ極きめて樂あみたるも地ちなるり

余よ輩はの如ごときハ世よ人ひと志し好あ愛いす教しに慣な習うて只ただ
 愛あニ沈しん溺めし真まの樂たの志し并なし知し程ほどが後あと小
 ぢふ下した手ての横よこ好ずき尾お先さき真ま闇くららなるも地
 ク蓋けし口くち志し魚うし何なんの背せの屈く志しある尾お之の曲まが
 のあ教しめら后あとニ今いま明あきとも其その善よ悪あ哉や
 批ひ判はんするも哉や得えば只ただ丸まる子こと云いふ報うち地
 丸まるき哉や見みる宜よろ志しとす教しのみ况まろく疾や痛まハ
 知しる事ことあり故ゆに營えい業ぎやう者ものを尋たづね問とへて矣や

狗の鼻高を肩脅努張り詰すまじども
病の魚因ハ知まがまし寒氣ニ感あつく
妖腐敗多り糜爛の穴顯多り水と換へ
よ指水等ニ急るまと匂れと頻々口ニ唱へ
て歌あざるのみ故に汗埃流しく水を
換へ遂に死せらば魚の病とさふのみさて
救ふまじとさふゆは 「中々知て深き秘」 金
寒氣ニ感ずぬるも此方のまじら春のみある

塵世に秋に至り尚を同病何れ如何に
我や之ま我詢問すまじら生何るも是れ死
す數ハ常しくしき 独里魚のみはありば
諸物皆然りとさふ余金鱗を以て生涯の
樂員とせんと思へしと豈計ん死の迫る
あし早き哉や清ら物の始終を考ふる
に禽獸草木と魚とも其本は知履をま
ば末を知るの理なきしまに於て先づ病

の原由治療の方法探知し、而して后に飼はんの我決せり時、一友人は訪ひ阿里友人曰く君ハ目今好愛此情、尽果志望一室に閑居すと聞き遠きを厭はずして来り見由君の病る所以ハ察するに金蟹此養育たらん健康ニ養育して生涯此樂志并ニせんと思ひ、世豊島郡千束村住号ハ旗鉄なる翁に尋て教示を受

事而して后愛玩せよ、仍而翁を訪ひ此時余ハ本所に住す、明治五年七月の廿日、ある日、生育を熟觀するに、従来の養育と異なるあり、莫も亦小那りさきと骨堅き肉志まを游泳するに、穩り志く、壯健なり、兼心中少く疑惑を抱き、翁も又毎茶が進退動作に不信を起し、君ハ日々翁の茹茨に来り、金魚を覗きて、忙々然と悔省す、其行

狀解得志が多々糸曰々先はハ然せり后に
 ハ斯の如しと具に苦辛せしと此情態我
 告を箱笥爾と志く突ふの母余重祿を
 問に養育の方法哉以てす翁の曰く不肖に
 志言明瞭却らざると雖も我今日迄の養
 育哉詰履んと其答并丁寧深切あをけ
 り翁ハ石川龜吉郷り此の業に長事す
 孰凡そ三世にしく幼より老の今も至る

由で実蹟如斯其言中詳明ふしく毫も
 疑致哉容るあ志病の原因治療の方法
 畧知是利更に経験の品あり金を効何
 ら後来の大幸なりと志ふ此に於て
 始めて宿霧晴き葵草の朝陽に向か
 如し樂みの尽ざるハ赫喜雀躍尚と翁に
 後々愛玩するに一尾も斃まると志す
 因る世間愛玩するも此余と同志人かや

金齋齋戒錄 全 明齋堂 七 月 齋 戒 録

あらん茲に前の経験と抄録しき梓に
 上せんとす好愛者父の抄りたる抄答むる
 事那を實驗を積んで足らざるを補へ
 偏小追加せんあたは冀望すと云爾
 按ずるに眞數色茂呈する事繡の如志
 繡スビモノ即ち錦にききの利是茂しゅうより更砂魚
 に錦字茂書用志来る者那於哉

明治十六年三月

著者誌

金魚愛玩經驗録目次

- 一 全年手當の事
 - 餌の附方 子の取様 親子水換指水の仕様
- 一 二三番子取様の事
- 一 魚當歳あて大きくする事
- 一 漸次小肥大せしむる事
- 一 雌雄見分様の事
- 一 疾病看定並び小治療の事
- 一 藻の附様の事

- 一 狭き庭より養育の事
- 一 遠方は魚持行兼ニ着後手當の事
- 一 金鯊見様の事
- 一 琉金和金見様の事
- 一 金鱗と他の金魚と一処をさるゝ悪しき事
- 一 素性の事
- 一 魚と人物と相當の事
- 一 塗泉水製作寸法の事
- 一 蓋并ニ泉水と乾くすゝゝ悪しき事
- 一 水とあととさ生ぢる事

金魚愛玩經驗録

常盤木秀慶著述

全年手當之事

一月 嚴寒の時節此月一回極晴天の日午後に水換一
 擧しき風おき快晴の日毎日蓋を少々取り空氣を
 新陳代謝せしむ其時餌食少しも是なくば残らざる
 様與へ置く寒さの節ハ余り食ぬ者おきとも入を放
 し甚だ悪し時間と極めおき強く與ふとくは
 二月 赤と寒風凜冽の季候手當前同断水換ハ月二回

とす

三月残寒漸々退き陽氣發生乃時節ふと中旬より
 圍を半バ取り同く下旬末は快晴の日何れは残り
 取り拂ひも一寒さ強く狂風の節ハ菰蓆様あつ者と
 少々風避々々おす此月より雌魚雄魚と別け置々猶
 一倍より一さハ容歳圍への際ハ別離置々なり此時は当
 つく未だ余寒ありと思ひ疑心を抱き圍ひ取り拂ハさ
 る時も陽氣暖たつたる故小魚蒸々種々の病に罹り
 安一其故に寒一として厭ふ事あり圍ひと取り除け
 亦と餌食ハ圍ひ半バ取りとせハ魚陽氣よりさそはれ

餌沢山下らん事と思ふも少々宛ふへ受くく充分成
 るがうくは餌過るとせハ病ひ発するの原あり水を
 其終旧き水置を宜一とせハ身肥り娠妊時
 ありハ脂充滿一水濁り安一余り濁らハ正午十二時
 頃ハ取換る事申す雨小ありも曇天の内ハ子細ふ
 晴天ふなり涼温有りある時ハ少一苦み帯び魚の
 ためはあつと害なり仍て水換す又雨天あつてな
 る時ハ止事と得て快晴の節新しき水二分と指水と
 す濁らるる水換ハ一回を宜一猶雨水入りたるを
 二回位の度とす水と換へ指水共度々至す時ハ魚

一旦喜ぶ様ふれども心ろ持ハ悪く却る害あり一層注意せしむる也

四月陽氣漸々盛んにふり魚分娩の時節到来此時に當つて水換を三度と度したる交々指水入らば若く濁らば一回取り換へ餌を過まば魚乃体を充分に肥し置し亦餌を次山より水と換へ指水等數度致さば地々魚体急な肥満となり且も真正の肥り小つて故小魚のありは害あり種々乃病ひを發する事甚だ多し能く注意せしむる仍濁りふくば成り丈々旧水にいたるはき餌食も控申るべきは親魚壯健

故小保つものありは八十八夜前後を目的とする事肝要なり扱へ八十八夜前後に至るは雌雄共称々春情盛ん不成り互に相慕ふる泉水の淵を回り雌魚雄魚の差別もあらず正に交合せんとす夕の卵孕充分に育し驗しあはば此時は餌を一日二日位のみ與へば置き涼を掃除し新らした水を入り藻とたりべ明日産んと欲する今日雌雄一處に致さるも様子不分明あり一兩日前に至るも佳なり其一處に致さる時より産終る迄餌を充分に與ふべし是を分娩故あり又外の塗涼に新水を入り置き藻を付たる卵と

入るる支度いし吸置の水を貯ふし肝要とす卵も
 新しき水又入るる時ハ腐敗をせし扱て人々多クハ妊
 娠の時節餌を沢山よ子へ水と度々換ざらん道理ハ非
 ぶと思慮する者あり其何よ寄らば生有者親強壯ふ
 らざらん妊孕健康をらん希なり申す餌と沢山よ與
 へ水を入換せしめ手當するときは此月半は産と虽
 ども其子ハ月足ぶあし晴天續きあても卵ハ腐れ
 多ク孵りもる魚ハ所謂葉のじく養ハ容易かゞ多
 くハ虚弱なり自然の手當ふされバ妊孕満足して体
 肥魚壯健なる故ハ八十八夜前後ハ漸々分挽き扱る

卵ハ雨天ハ達と虽ども腐敗せしむる解りたる解ハ至
 健康ハ長年するものなり
 註よ曰く雌雄一處ハ住居する時ハ相互ハ馴合ハ
 戀々の情薄らぎ能子を誠み少なり雌雄別々ハ置
 且手當の宜し身体ハ強壯ある故ハ分挽近付ハ從
 ひ戀情まよひ隆んふなり實入り宜しきなめ能
 子出來る者あり就中て餌も充かよふと水も度
 々換ざらん人々疑惑あるべし其故ハ田中ハ水
 度々變るるも少く餌食も少く閉籠る春暖りにか
 り田取り拂ひ始め陽氣の新空と受を間さよ

り明るり小出あり清々身体緩々勇み悦び嬉し
 供は餌を充分に食し亦水の換る小及んと倍々飽
 食を是病の本原あり草木とソレも肥し過り時を
 甚實以持て或は枯木とせし生有者皆然り愛玩者
 能此理を勘考しややたり

五月前條乃手当きし時を一兩日の内よ必らば分曉を
 産すべし朝日の昇り際より午後第二時頃産終る
 其前後乃時間の中央より一度深き藻を取り換るる
 其換るる藻ハ産終る迄捨置しむ尤も藻ハ成り丈け
 込ざる様魚の働も自白小至るべし其日小産終りた

る雌魚ハ新らし水小仕換たる塗泉水小入る水を
 少し吸置し一日餌食を付むに休せ置し若旧水を
 親魚弱る者あり又其日は産おきたる外の金魚
 と産さんとする時ハ即日直に塗涼を新しき水は仕
 換へ藻を入り取りし前二回ト

扱産する卵ハ丈度致し置する塗涼乃吸置する中入
 其其終少しも動さざる若し狂風の前ハ風乃来
 る方小避々板至る其仕様ハ南風の時ハ南の方ハ葭
 り或ハ竹簾等風避し或は泉水の蓋は成りたる要慎
 何るべし夜分涼乃蓋ハ旧き葭竹簾等涼より四五

寸位の放し蓋をす是ハ夜分雨風の要慎あまらば器物
 と蓋と密着せざる様々朝ハ成丈々早く蓋を取り夕
 景ハ点燈を相図すまぐべー卵ハ晴天あまらば八日目より
 脱すトめ九日目より魚とあ。若し雨天或る寒さあ何んば
 日送りとなる其弊りくる魚を見と思す内白た器
 中藻の中へ入すか観時を合る者あり晴天四
 五日續し時を魚を藻放すと称へ泉水の湧り底多く
 集る者故極晴天の日よふ午十二時頃より藻を一本宛
 引上り魚乃痺ぬやうに取ら肝要あり藻を去り翌日
 晴天あまらば魚ハ四方の淵に残りぞ付や鶏卵一ツは湯

出く自身と去り黄身斗りと沙乃切に包み水五合やと
 する器に濾し水よく溶解し四方の淵に静に流し
 込べー尤も王子の黄身と附る前水鹽鱒のわらば蓋
 猪子に半分程入し置た其後黄身と入し其内ニ水
 鹽鱒がみらん子と産し其子と亦魚の子が黄身と喰ふ
 べし餌食とス時を魚を壯健に成長させ若みらん
 子あまらば黄身半り付置壹番水取換し後必らば
 水鹽鱒と付べー一番水取換へ黄身を附し日より七
 八日と経く晴天の日よ至すと其吸出器撤はんを七八
 寸位の筈の外に沙の切を一面小張り其筈を魚の中

一 沈め笊の内に溜り、水と器物より吸出し外に塗
 涼より新しき水を三分此水も吸置やど宜し今魚の中
 より吸出したる水を七分せ其水を塗涼の魚のけつ
 器に器ふ六七分目程入ま置余り水ハ悉皆取捨泉水
 ハ何れ六七分目位より多くても勿れ是より多く
 夜分雨降り泉水よりあぶきくく知ハ鮮々流し出さ者
 あり余り溜らば其都度々々小流をのり吸し水を
 べしすて鮮を移し器より水づると鮮をじひ移し
 若茶あつぱじひをくく一々ひんを二番水取換ハ換
 たる日より十日頃迄の内は取換る其仕様ハ新しき水

一 浅魚の中は水と各半に割其手當前より同漸を新ら
 一 水と前の日より吸置となす
 一 三番水取換ハ日數凡そ前と同仕様ハ今日新しき
 水と器に入し吸置となし明日混和水あり取換に
 其後水換乃時鮮の仕訳至すし魚の善悪は抱も
 らば中の白き器を取り魚乃飛と稱へ大き威き寄合
 一 舟とあは都合二舟とあは
 一 以後水換の時より小なる魚の方よりまゝ飛と唱へ
 一 大きなる魚と寄合々一舟とあは都合二舟とあは
 一 先大中小三舟は分別し後の水換の節大乃方の鮮の

内より射尾す。三尾より曲り尾背の凸凹をとり取り除く。

中小ハ右曲見分らず其俟水換を孰も見分り次第水換の度々悪しきハ取除く。

大中小の粒不粒の内ハ餌食と切とく。若切らず時を魚痺む者あり粒揃く。后ハ少々位ハ餌食切

とく。格別子細ハ魚の子四五分位より餌ハ子又蠓蚬一名糸蛭蚬と附を。此餌と與へるに及

ん。ハ一回より少々宛度々ハ與へ。猶此月親魚の水換ハ三四と局度より余り濁らば此月より新らし

水二分と以て指水とす

六月入梅中ハ雨天勝り滑り附。或ハ糜爛魚羸瘦不機嫌とある。猶々餌ハ過る。勿き雨天何日續くとも

其俟より子細あり。其内快晴の日に水換を晴天一兩日何ハ滑りたれとも清潔とある。縦令如何程羸

瘦る共壯健あり。忽ち肥満す。此月中旬快晴の日に簾等と泉水の四分の一と潔の真中ハ掛釜日避とす

但餌ハ日避の下ハ入置を。此月親魚ハ水換ハ四回と局度とす。晴天あり。毎日午後第四時頃より新しき水二分と以て指水とす

誤服

七八九の三月月ハ皓暑の候方々魚成長く子
糸蛭蚓を食する少く至る餌の付方餌を朝や
食ぬ者ゆへ親子とも午前第九時頃より少々宛度々
子へ午後第四時頃限る親魚ハ子より少く與ふ餌
食余る時ハ食滞一病を發せしめ夜分ハ魚痺
安き者ゆへ成り丈け空腹ありと壯健とせ此故ハ炎熱
のつめ水沸騰一魚暑と避んとし涼き場所
至り先耳と思ふ間もあく空腹となり亦餌を求めん
ため掘る泳ぎ故ハ食滞の患あり魚壯健ハ肥満
自然ハおぐ終日終夜熱水成時ハ炎暑不堪へ

夏ハ魚痺ハ仍患と防ぐんハ第四時頃より旧水
二分と吸出し新き水二分と以て指水とす之ハ魚終
日炎天ハ照され水威水ありと差水のためハ冷涼と
覺ハ暑と凌ぎ悦ん静小逍遙此手当第一あり若
疑心と抱き餌ハ何程入も置も飽満する時ハ食ぬ
者ハ心得尽夜の差別あり餌と子へる時ハ魚尽の炎
暑ハ甚く空服を厭ひ沢山ハ食一夜亦甚く
至り増々食するため魚痺ハ現然より是と以て午
前第九時頃より午後第四時頃ハ子へる時
ハ食滞と患あり夜中炎暑と忘る助けハ指水

なり午日食せし者ハ養ふ骨堅く肉附く壯健不
 成長すかく手当能くせざるものハ養育よくと記者ハ
 此三月ハ親魚の水換ハ五回毎日三分とき水と
 す尤も九月下旬より親子とも指水ハ隔日と
 十月より水換ハ四回上旬に内ハ三日置は指水至以後
 ハ指水入らざ

十一月ハ水換三回指水ハかく害なり十一月の両月
 ハ免病不罹り安き者ハ猶々餌と控へると尤も春
 秋ハ病氣発する時節まき春の手当と同様なり
 十二月魚田ひやく成丈南の方と明片屋根不至

菰あり蓆ありまき葎下まき此月中旬迄ハ屋根がけ
 一簾の蓋をなす中旬末まき葎と塗泉水半
 分通り掛置寒小至り涼一面ハ菰并へ掛置若
 雨天まき泉水ハ掛置菰ぬき魚のためよあ病
 掛り安きものハ上屋根と拵へ置のすれば変へて泉
 水ある菰ぬきぬき要慎有るべし但水換ハ二
 回なる事

其他ハ一月の手当たる事

二三番子取様の事

二番子産せ方ハ一番子の通り二ツあり一ツハ毎日隔日

に水換し餌も澤山ふする時を十日目位への内は産
 卵も至る虚弱ある者あり一ハ初子の如く手当する
 時を漸々十五六日目に分婉を其子ハ前同様は強壯を
 り諸産初めハ前より少く早く正午第十三時頃より産
 終る孵り方ハ六日目位より卵より脱る皆孵り終る直
 に藻と取り除けし一手当本文同断

三番子産せ方前條乃通り産初めハ前より早く十
 時頃より産終る四日目位より産る藻と取りて前とおふ
 日數相違何れも手当本文と同ト

二三番子の卵ハ昼夜とも蓋入らば

三番子ハ午後第一時頃より泉水の蓋を成らざる様は日
 避至し日蔭をあつて取除るべし

魚當歳より大きくする事

毎日水枝取換或ハ隔日取換餌も充分與る時を
 當歳より二歳の魚程より大きく成長す然れども是魚を
 二三年位より出せせよ

漸次は肥大せしむる事

成丈け水ハ五六日位よりやうかへ餌も足ざる様は至る時を
 骨肉堅く身軽く壯健なり勢ハあり魚小ありと雖も
 漸次は生育三四年とかなる時を當歳より大きくせし魚

よりの成長強盛ゆく長年事拾有余年も出世する者あり

雌雄見分様の事

雄魚より追星あり雌魚より無し其追星より前鰭の淵より星乃形ち有り雌魚の滑り星あり尤も當歳より十月頃より星始り顕る者あり

疾病看定并は治療の事

金魚の尾水色より薄き常あり白く強厚なるは不快の驗其より粗腐とあり或は腐敗なる是を甚ど難治の症なり粗腐病をぬぐは白くは解す

一局處より漸々至全軀より及ぼす浮び居る者あり或は腐る其時其の魚を離し一尾泉水の隅の方より居る其時ハ早速あつた改め見るなり必らば腐敗を居る者あり松皮病ハ鱗逆立松の皮の如くなり終り飄の形なり似寄者なり糜爛ハ雨天後多し有者あり水取換餌を控へ晴天續くれば治る粗腐多し腐色等を傳染性となる故早く外の涼み日避至し成文け旧水より冷まし餌食は少く與ふなれば若取換るならば吸置に至り吸置を宜し粗腐ハ毎日一回人々口中に入し含めし位の薄き塩水より切を以て吹

取て三四日位より効ありたの石炭酸水より隔日
 或ハ三日目より筆の類より静に洗滌する總腐
 るら此口を開け一本の葉乃先より擦陷を其跡と葉
 の先は塩とつけ閑取り一処に附置効あり其後石炭
 酸水より一回洗滌置き一兩日達る瘡所白くなり居ら
 ば前のごとくす松皮病の前のごとく旧水より入を置同
 く餌ハ與へば日一回或ハ隔日一回サルチール酸水と
 以て洗ふ事前の如く此餘經驗中の品ありと雖も
 未だ實効を見ざる間是を畧し此病の原因ハ多
 ハ餌過る蒸る故あり然るも此病ハ未萌の内

手當するに依りハ本本文乃如く廿八九ハ大丈夫
 あり若出する事ハ輕症の内ハ手當する時を容易
 且快癒及ぶ重症に至るハ殆んど難治乃症小至る
 事あり

石炭酸水方

結晶石炭酸十滴 虞利私倫二十滴

蒸餾水

撒尔智兒酸水

サルチール酸十分 蒸餾水八分半

右混和し用小供す

藻の附様の事

藻と二尺四方程の泉水の底に疊の如く敷並べ細き竹やぐらをおきん浮ぬよの石や瓦ふく沈め置き其上に少々の藻の根と結へ其根を石よりく壓へ葉をよ上よ浮し自然は芸くら如く入き置べし猶圖面よ何り

狭き庭の養育の事

四方拭拂への場所あるに塗泉水或は箱舟よても結構なきも狭き庭に四方立込或は一方の家屋あり一方は垣根塀等作るやうらんに空気の流通悪き故に箱泉水と高さ二尺位に臺と至し庭の真中よ置雨落

と避け愛玩する時を魚は健あり尤も高さ程宜し縦に令廣き庭ありとも垣根塀等の側は悪し如何と成は垣根塀ホよ光線と受け其反射のため泉水蒸る事甚しし其たぬ小粗腐るら腐は木の諸病を發は

遠方へ魚持行并ふ着後手當乃事

遠路の処へ持行ハ器が第一あり旧き器物に入し持行べし尤も旧き器よても仕舞置し物よもハ魚瘡む者や名五六日水と張り器相當よ鮪あり鯉あり入き置けをぬまり付者あり之ハ水道中する時のため扱持行んとする金魚ハ涼を新し取換へ餌を少し

與へぎ夕刻は差水し翌日持行な途中まで水
 と取換るに旧水と其俵置上は新しき水とた其水と
 澤山あがり亦と新しき水とたおろりおろり毎日手当
 一あがり持行な扱着く其日より泉水或ハ
 緩らざる器物は澤山は水を張り金魚のあまさら様
 入は一兩日日遊夜至一五六日水と取換へたの
 指水も悪し十日の道中より七八日の間餌と付る
 事勿し三十日の隔路より十二三日かと同トく餌と
 付べかゞ其後子子糸蚯蚓あまを一尾の金魚は
 二三足当ぐぬ小入も置まて翌日餌と休その明日

同様と與ふ若泉水濁らば取換る魚涼乃測と駈廻る程
 餌をけからとも少々完與へ漸々又身体とおろるへ

金鯿見様の事

金鯿ハ性質穏和第一首頭大く顔面幅廣く
 頬肉厚く背ハ櫛形乃如く尾筒太く付際緩く尾真
 回りなり尾ハ三尾四尾櫻尾孰も柔軟ふり開き能
 く泳ぐ時ハ尾密め停止る時を開き尤も捐鱗本
 有り二本あり回りなり上下を色ハ就ても係ら
 ず丸く長き魚なり所謂小判形と稱し随分全体幅
 廣く顔面先丸く出る有り角は出るのりつづきも

幅廣く張り出る程上等品あり

琉金和金見様乃事

琉金は性質強壯し丸く長身を持ち尾筒太く付
際緩か小尾真回りなり尾は薄く長く縮むなり背鱗
前後乃背指鱗随分なぐり節あき魚と上等品とす和
金ハ性質至く強盛なり身体長く尾筒太く背鱗尾
筒近くまゝあり付際緩く小尾真曲りあり尾柔軟小
し開きよ凡魚と上等品とす

金鱗琉金和金も尾筒窮屈あり必ずぎり出出る者あり

金鱗魚と他乃金魚と一處よまらぬ悪しき事

三魚とも一處よまらぬ置魚に些少乃患へたりと云ふも
寔よ忌むべき事なり金鱗と他の金魚と一ツ住居す
時々其氣と受翌年生う魚は多く首頭少く或ハ
背鱗足らずなり形容とあり或ハ凸凹出来尾は長
短あり多し双魚の容姿と顯し誠不満足成ハ至々
少あり仍て金鱗と他の魚とハ水取換る中たりとも
一處よまらぬ置ハ忌嫌ふ事尤も甚し

素性乃事

素性を大切なり其性より大きき善悪あり注意せよ
さあるも其素性を見る事甚ど難し筆を取り紙も

述及まゝに能くは實小困苦あり然しあつて多く取扱ふ時を其詳明なる事なりん仍く口傳とす

魚と入物と相當の事

幅三尺長さ六尺深さ五六寸出来の其泉水より当歳魚十三四尾二歳より八九尾三歳は六七尾を限り此上より多く肉付び

塗浪製作寸法の事

塗泉水と拵るより堅六尺横三尺の者より深さ五六寸と定規とす若く深くせんと思はば順に四方と大さく二坪位より深さ一尺を限り此上如何程

大ききても余り深過ると鯉魚のため甚だしき害あり定規出来の泉水より寒中凍ぐと大丈夫あり若く疑惑と抱く少きと浪を深し至る時ハ大なる後悔あり蓋井より泉水と幹する悪しき事

泉水より蓋ハ風流通する者試す若く空氣流通のりハ蒸る者故時々氣を付け改め觀るべし仍てある爛魚瘦る者故時々氣を付け改め觀るべし仍てある是ハ烏猫鮑の避けありその患あつて蓋入らば塗浪と乾く其乾くは水と入直し魚と入る

時を忽ち死に仍く一昼夜水と張り置其後取換へ入
る子細を箱泉水も同ト

水ふあをき生ずる事

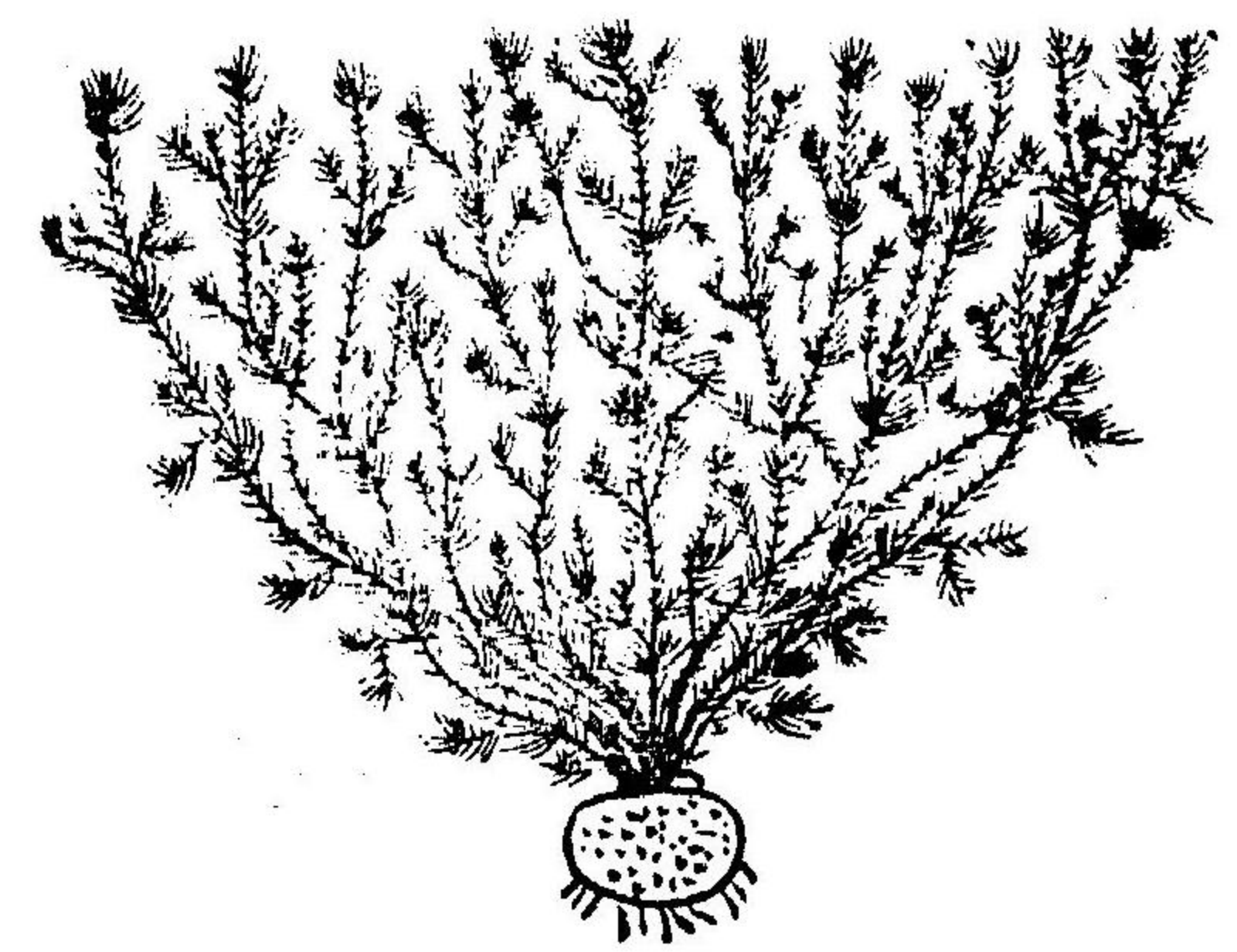
前條は解乃水換を十日位の内と雖も井水ハ腐れ
安き者故「あをさ」と通稱一者生ト解ガ痺む者亦
且バ一兩日も早く取換る一有り若換るナラバ水も
吸置とあを「あをさ」が出来ずル本文通りに至モ井
水を腐れ安きと雖も水道ハ或を清き流る川の
水も「あをさ」の患多シ井水も「あをさ」も同ト
也

註ニ曰く琉金和金と雖も塗泉水のとり扱へ總
く本文「あをさ」

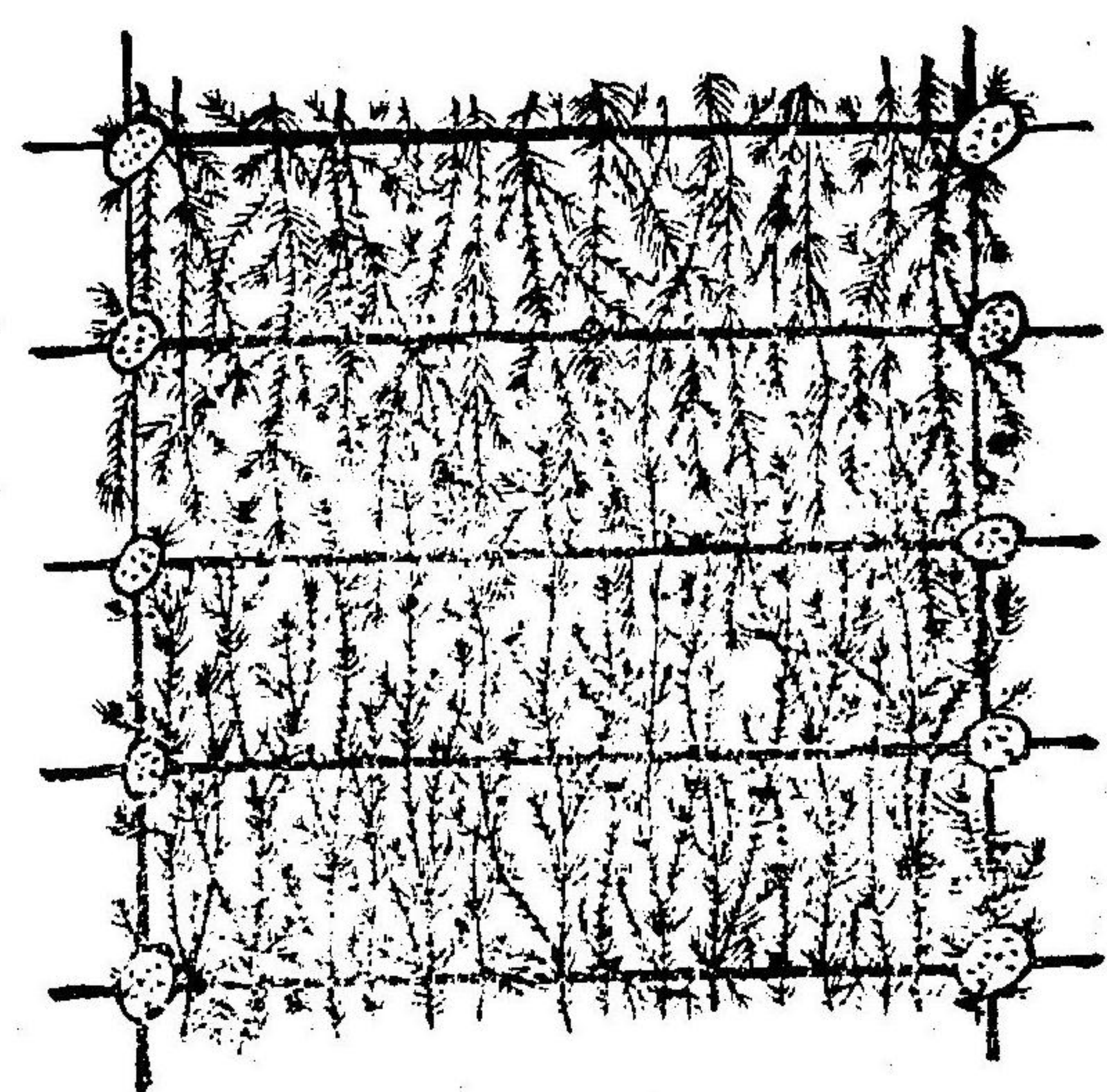
少く分焼の部ハ八八夜前後と有りと雖も營業
者も都合より十日位も早く産せる者あり是
止と得ざるなり

魚と器を入と持歩行き小蓋は空氣流通と死
たのにすゝ一何れ等明々置く器より遠近を問は
持行ふは「あをさ」穴ハ死蓋を「あをさ」往來を
魚壯健あり

浮藻の之の圖



浮藻を敷藻の真中へ置く

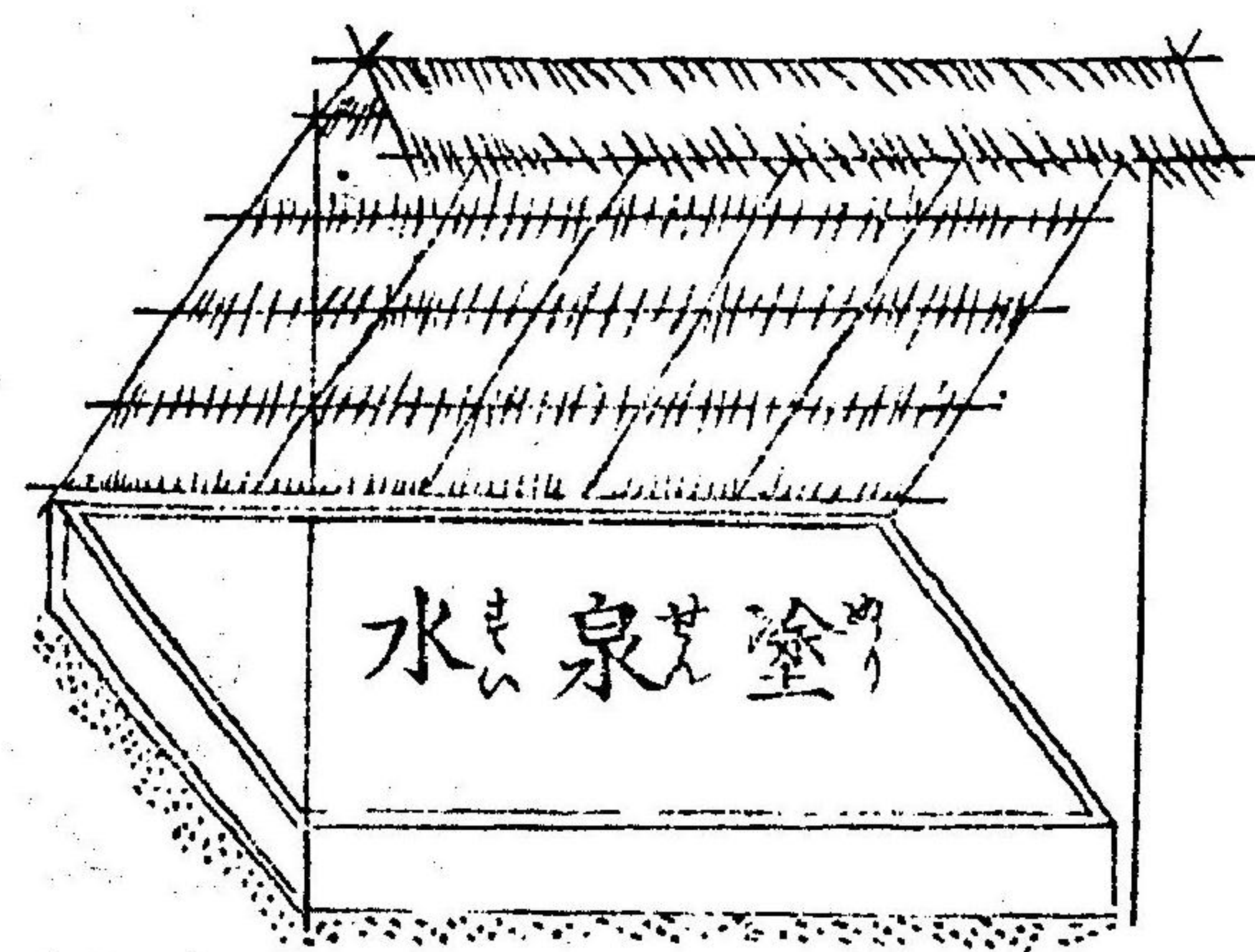
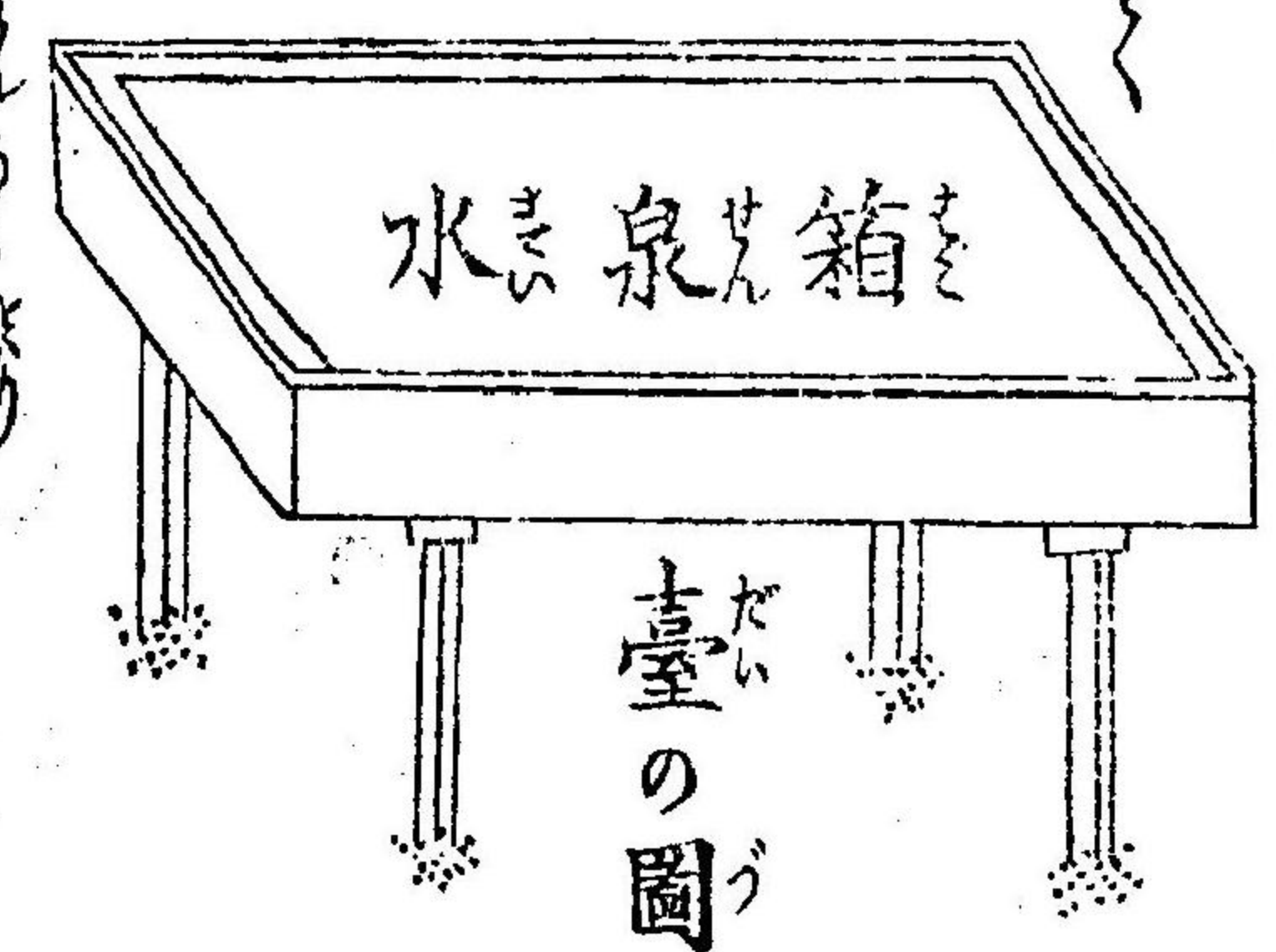


敷藻の之の圖

冬の間の時ハ此上ハ屋根と
あしと蓋とする事塗泉
水とおるト下の箱

田の
上屋根の圖

一面
田の
あし



金魚愛玩經驗録 終

全書三拾錢

有隣堂

明治十六年二月廿日板權免許
同 年四月出版

正價金三拾錢

東京府平民

著述兼
出版人

常磐木秀慶

東京淺草區淺草田町
志町目二番地

有隣堂

發行書林

穴山篤太郎

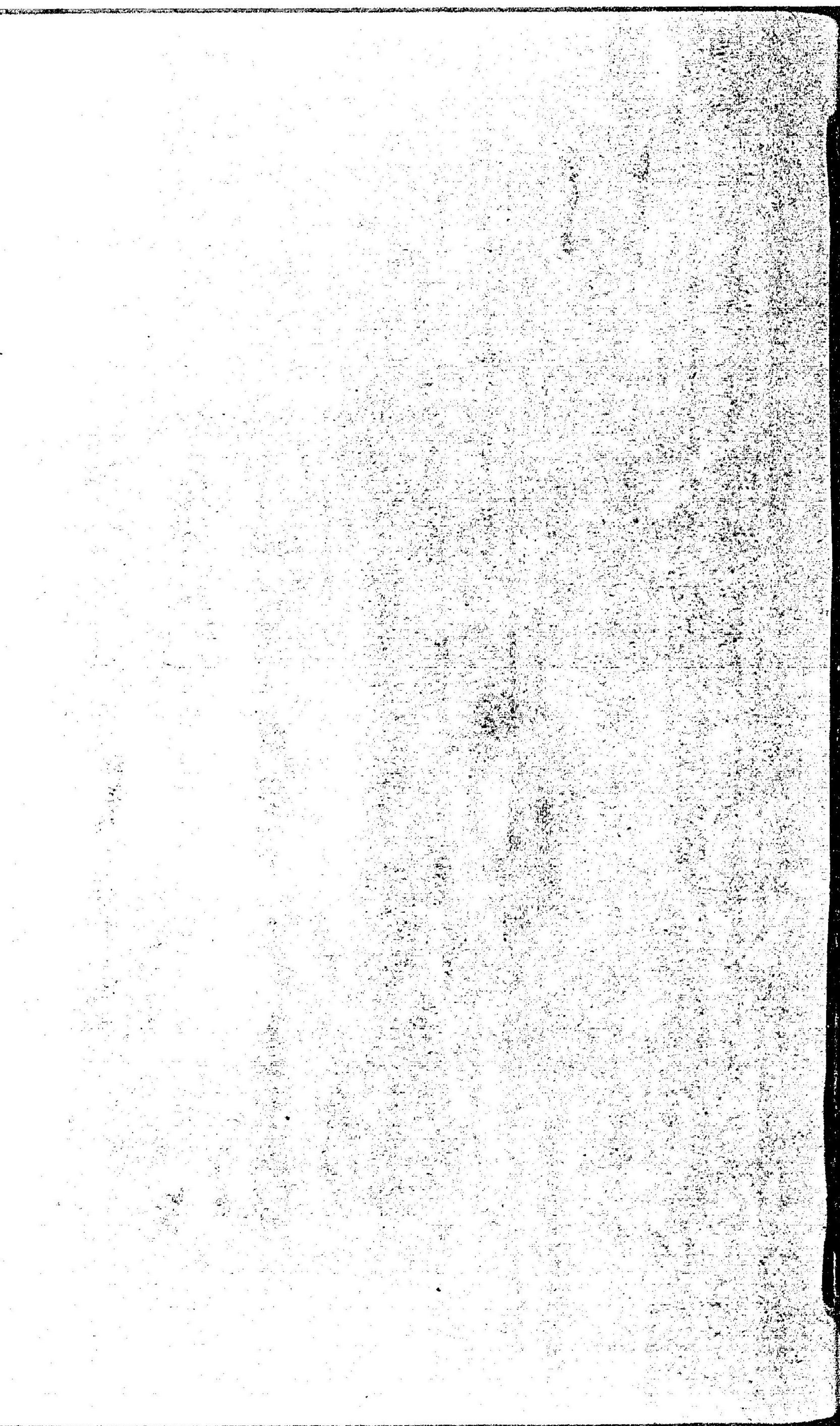
全 京橋區南傳馬町
志町目十三番地

65

136

[The text in this section is extremely faint and illegible due to the high contrast and grain of the scan. It appears to be a large block of text, possibly a list or a detailed entry.]

[Vertical text on the right edge of the page, likely a page number or a marginal note, which is also illegible.]



金魚愛玩經驗錄

65
136

065519-000-7

65-136

金魚愛玩經驗錄

常盤木 秀慶 / 著

M16.4

CCF-0121

